

「戸惑いと不安の中に与えられたインマヌエル」

今年のアドヴェントはどのように過ごされましたか。幼稚園、子ども園のクリスマス聖劇礼拝はどれも素晴らしかったです。どの園も子どもたちが緊張しながら、一生懸命に準備をして、与えられた役割を果たしてイエス様の誕生をお祝いいたしました。先生方も今年の聖劇はどのようにしようかと思案しながら準備を進めてくださいました。私はその準備の過程を不十分ながら先生方から伺っていましたので、たくさんの悩みと不安があったと思います。だからこそ聖劇礼拝の後は涙と笑顔が溢れたのだと思います。

悲しいお別れもありました。これまで教会の働きを支えてくださったお二人の信徒の方が逝去されました。お二人はご夫婦でした。11月、12月にそれぞれ天に召されました。残されたご家族の皆さんのお気持ちを思うと悲しみでいっぱいです。皆さんはいかがでしょうか。嬉しい事や楽しい事もありますが、不安や戸惑いも正直多い日々なのではないかと思います。聖書が伝えるクリスマスも戸惑いと不安が記されています。

まずは、イエスの父となるヨセフです。彼は婚約者であったマリアと一緒にいる前に聖霊によって身籠もっていることが分かり、マリアのことを表沙汰にするのを望まずに密かに離縁しようとしていました。そんな時に夢で天使が現れて告げるのです。「恐れずマリアを妻に迎えなさい。」そして、マリアが産む子にイエスと名を付けるように命じます。それでは、イエスの母となるマリアはどうであったのでしょうか。

天使ガブリエルがマリアのところに遣わされて「おめでとう。恵まれた方」と告げます。マリアは自分の身に一体何が起きたのか考え込みひどく戸惑います。

ヨセフとマリアも天使の告げた言葉で恐れにとらわれ、ひどく戸惑ったと聖書に記されています。想像力を働かせて二人の心

情について黙想しました。最初から「ハイ、分かりました。ありがとうございます。」と従順に神さまからのお告げを受け止めたのではなく、戸惑い、恐れ、大きな不安を抱えつつ、神さまのなさろうとしているご計画に従おうとしているヨセフとマリアの姿を心に留めます。そして、そんな二人に天使は共通してある言葉を伝えるのです。

それは、「インマヌエル」です。意味は「主はあなたと共におられる」です。

恐れと不安で心が張り裂けそうな二人の気持ちを神さまは痛いぐらい受け止めてくださっていました。だからこそ「インマヌエル」の存在が必要なのです。誰もが最初から親ではないのです。不安と恐れ、戸惑いを抱えながら共にいる周囲の愛によってヨセフもマリアもイエス様のお父さんとお母さんになっていったのだと思います。私と一緒に生きてくださる方が存在する事を知るとは大きな恵みです。忘れないで生きていきたいですね。クリスマスおめでとうございます。(司祭 越山哲也)

